

オオムギ雪腐病の多発生に注意!!

今年は降雪が多く、融雪が遅くなる見込みです。積雪期間が長いと積雪下でオオムギは消耗し、褐色雪腐病にかかりやすくなります。腐敗が生長点に達するとオオムギは枯死します。水がたまりやすい圃場は多発生するので、排水溝の整備をやり直し、排水対策を徹底しましょう。

1 多発しやすい条件

- 根雪期間が100日以上圃場
根雪期間(アメダス地点) 福井: 30年1月10日～、大野: 29年12月11日～、今庄: 29年12月6日～
- 播種が遅れて越冬前のオオムギ生育量が小さい圃場
- 排水が悪く、溝に水がたまっているような圃場



排水不良圃場の雪腐病



褐色雪腐病の症状

2 防除対策

- 本県で発生する雪腐病は主に褐色雪腐病で、紅色雪腐病の発生は少ない。
- 褐色雪腐病菌は水で伝搬するので、融雪後はすぐに排水溝の整備をやり直し、排水対策を徹底する。
- 融雪後もみぞれや雨が多いと多発するので、排水を図る。
- 融雪促進剤の散布による融雪促進を図る。
- 生長点が残っていれば回復する見込みがあるので、追肥を施して、オオムギの回復を促す。
- 融雪後に使用できる薬剤はない。

☆最新の農薬登録情報 (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllg301.do>) を確認して下さい